

【速報】 ミャンマーの最新情勢（2022年8月31日）

～ヤンゴンから～

2022年8月31日

ミャンマービジネスサポートデスク 西垣 充

中央銀行の公式レート(1米ドル=2,100チャット)と実勢レート(1米ドル=3,200~3,400チャット)の格差が急速に広がっており、それに伴い燃料費含め物価上昇が深刻な状況になってきています。企業活動にあたっては、輸入許可の遅れだけでなく、外貨の現地通貨チャットへの強制両替義務付けや、外貨の購入・国外への外貨送金にあたり外国為替監督委員会(FESC)の認可を得る必要があること、外国への融資返済を停止するような指示が出されるなど、混乱が広がっています。

商業便の再開による国際便の増便等の要因から、6月に入り日本や近隣諸国からの出張者が増加傾向にあります。2022年4月1日からオンラインによるビジネスビザ申請が再開され、4月17日から約2年ぶりに商業便が再開。5月15日から観光ビザ(E-VISA)の申請が再開されました。ミャンマー入国に関する主な内容は、①到着14日以上前までに承認済みのワクチン接種を完了していること、②国営保険会社 Myanmar Insurance の保険へ加入していること、となります。ミャンマー入国後、RDT 抗原検査が実施、陰性であれば空港を出ることができるようになりました。ヤンゴン地域では、ショッピングセンターやレストランなど21時まで営業しているところが増えています。

①テレビ

国軍系放送、国営放送、民間放送については、2021年2月2日の状況通り。民間の大手衛星放送「SKYnet」では、多くの海外放送のニュースチャンネルが視聴できなくなっていますが、「NHK プレミアム」と「CCTV4」は視聴できます。海外放送では、スポーツや音楽、映画チャンネルのうち、FOX系、HBO系が視聴できなくなっています。一方、新規チャンネルとして、Bloomberg Myanmar ではミャンマーの経済的なニュース、One News Channel では世界の出来事や観光地などが新たに視聴できるチャンネルとして追加されています。

②インターネット

光回線やWIFI(ワイヤレス・ブロードバンドサービス)、携帯電話データ通信などは問題なく利用可能です。ただ、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどのSNSは閲覧できなくなっています。携帯電話データ通信では、政府が許可するアプリ(ZOOM、LINEやSkype等約1,200)のみアクセスが可能になります。2021年12月8日より、ミャンマーの携帯サービス事業者は、データ通信料のパッケージプランを30%~40%程度引き上げています。ノルウェーの通信大手テレノールは携帯通信事業を売却、カタールの通信事業社オレドールはミャンマーでの事業から撤退する方針を明らかにするなど、使用者側にも混乱が広がっています。

③電話

いずれの携帯電話会社も通話及び SMS は問題なく使用できています。

④日常生活での支障

ヤンゴン市内の大型ショッピングセンターやレストランはほぼ通常営業しており、週末などは非常に混雑しています。大手流通小売り「City Mart」は、一部店舗は 7 時から営業している店舗もありますが、多くの店舗は 9 時～21 時で営業しています。タイ系小売り・卸「Makro」は 7 時半～19 時まで営業しています。大型ホームセンター「PRO1」は店舗によって若干営業時間が異なるものの、多くの店舗営業時間は 9 時～17 時になっています。宅配デリバリーサービスは、「Food Panda」「GrabFood」いずれも通常営業に戻っています。「GrabMart」は朝 8 時～夜 20 時まで営業しています。

中央銀行が 4 月 5 日外貨を現地通貨に転換することを義務付けた通達を行い、日本からの送金分は 1 両日中に中央銀行が設定した為替レート(1USD=1,850 チャット、8 月 8 日から 2,100 チャット)にてチャットに強制両替されています。ただ経済特区にある企業や MIC 認可を受けた海外投資などは適用除外となる通達があるなど混乱しています。市場での実勢為替レートは 1USD=3,000 チャットを越えており、4,000～5,000 チャットになるとも噂されるなど、急激に二重為替が進行してきています。5 月 25 日には、中央銀行が外貨取引の停止を各省庁に指示。6 月 17 日に中銀書面にて外国資本比率が 10%を超える DICA 登録企業も適用除外になるも、7 月 13 日に適用除外を撤回されました。7 月 6 日付の中央銀行から民間銀行への通達では、外貨の購入が必要な場合、国外への外貨送金にあたっては外為監督委員会の認可を得る必要があると通知されており、日系企業の営業活動に影響が広がっています。

市中銀行の引き出し状況は各銀行によって異なり、最大手の KBZ 銀行では、整理券は必要なく、個人口座は 2 週間で 50 万チャット～200 万チャット、法人口座は 2 週間で 500 万チャット～2,000 万チャット、支店によって引き下ろせる金額が異なります。CB 銀行では、ほとんどの支店で整理券が必要で、個人口座は 2 週間で 50 万チャット、1 カ月で 100 万チャット、法人口座は 2 週間で 500 万チャット、1 カ月で 1,000 万チャットの引き下ろしが可能です。ただし、CB 銀行にはスペシャルアカウント、KBZ 銀行にはニューキャッシュアカウントという特別口座開設ができ、その口座に入金された金額は制限なく引き下ろしができます。この特別口座への入金、現金もしくは海外送金のみに限られています。

ATM 使用に関しては、KBZ 銀行は 6 月 9 日から 1 週間 30 万チャットまで、CB 銀行は 6 月 23 日から既存アカウント 1 週間 20 万チャット、スペシャルアカウントの場合は 1 日 50 万チャット、一部の ATM での引き下ろしが可能となりました。

ヤンゴン地域における公共の場での 5 人以上の集会禁止令は継続されており、夜間外出禁止令により午前 0 時から午前 4 時の外出は禁止されています。

⑤日系企業の対応

多くの企業が営業を再開しており、業種により在宅対応と出社対応の両極に分かれていましたが、コロナの感染者が多少増加傾向にあるものの、在宅対応企業の中には、毎日の出社を要請する企業が増えています。

⑥公共交通機関

<国際線・国内線>

国際線旅客機の着陸禁止措置は 2022 年 4 月 17 日に解除されました。日本への全日空直行便は 2022 年 6 月 1 日よりバンコク経由毎日就航に変更になっています。6 月からはタイスマイル(タイ国際航空)、エアアジア、ノックエアなどバンコク線が再開されるなど、国際線は 6 月から増便傾向にあります。国内線旅客機は減便されていますが、各地運航されています。

<バス>

ヤンゴン市内バスは減便運航されてきていましたが、コロナ感染拡大が落ち着きを見せ始めた 2021 年 8 月中旬以降徐々に運航数は増えてきています。ただ、2022 年 2 月頃から燃料費高騰が顕著となり、バス運賃は 2 倍以上の値段に高騰してきています。

<タクシー>

一般タクシーは通常通りですが、燃料費の高騰により値段は上がっているようです。大手配車アプリ GRAB タクシーは、夜間外出禁止令緩和により、朝 5 時～夜 23 時営業になりましたが、燃料費高騰によりタクシー料金は半年前の 2 倍以上になっています。

⑦物流

国際宅配便 DHL はフライト状況で発送・着送されるようです。EMS は、発送はできますが、日本からミャンマーへの発送は停止されているようです。国内物流は動いていますが、燃料費の高騰により、輸送費が上昇しています。タイ国境などへの物流も基本的には稼働しているようです。港湾局の業務は通常通り行われています。海上輸送、輸出入に関しては船の便数、コンテナ数が大幅に減少しており、燃料費の高騰なども重なり、輸送費が以前の 3 倍近くになっているようです。通関について、輸出、輸入とも問題なくできているようですが、乙仲業者によって業務スピードは変わるようです。ただ、輸入許可ライセンスの遅延等が深刻な問題になってきています。航空貨物は動いているようです。

⑧工場稼働状況

8 月 30 日のティラワ経済特区内工業団地の入居企業は 8 割程度が事業活動を継続中で、ミンガラドン工業団地内工場は 9 割程度が生産稼働しているようです。また、ラインタヤ工業団地内の工場、シュエピータ工業団地内の工場も多くが稼働しているようです。各社就業時間、出勤者に配慮しながら対応しています。

【大阪産業局ミャンマービジネスサポートデスク】

受託事業者： J-SAT Co., Ltd. 代表取締役 西垣 充

#1210, 12A Floor, Sakura Tower, No.339,

Bogyoke Aung San Road, Kyauktada T/S, Yangon, Myanmar

バックナンバー https://www.obda.or.jp/events/ibo_events_all/overseas-from-myanmar